

第23回定例総会を終えました

6月から早々に熱中症アラートが発令される毎日ですが、お変わりありませんか。在宅介護利用者さんにはエアコンをつけない方、水分を十分に取れていない方も多く、対策に苦勞する毎日です。もちろんヘルパーの側も背中に保冷剤を入れたベストなどで身を守りながら奮闘しています。長い厳しい夏が恨めしい介護サービスです。

6月22日暮らしネット・えん第23回定例総会を開催、新任理事、監事の承認も含め全議案が承認されました。

今期2年（役員任期）は、運営の中心を次世代に渡す準備の期間と位置付けています。まずこれからのえんをどんな姿にしたいか、法人全体で考えることから始めます。超高齢社会本番を迎える中にもかかわらず、介護保険に対する国の姿勢はどう見ても後ろ向き、障がい者福祉も決して見通しは明るくありません。そんな中で引き継いでもらわなければならないのは心苦しいものもありますが、いつまでも同じ体制ではられません。おかげさまで、次世代にはまじめで真摯なスタッフが多く、安心してゆだねられると信じています。NPO の世代交代は難題と言われていますが、地域の介護・福祉を守るために必要不可欠です。2年後の報告を楽しみにがんばります。

もう一つの大目標は「赤字にしない!」。物価は高騰、修繕費や車両の買い替え、多機能ホームは建て替えと経費は掛かるばかりの中、収入のほとんどを占める介護報酬は一向にあがらず、事業を行う上であたりまえの「黒字」を目標に掲げました。実は前年度は年度末の多額の遺贈寄付で黒字になりましたが、実質は約900万円の赤字。2年続きになってしまいました。原因の一つはグループホームえんが、人手不足から新しい入居者を年度後半ストップせざるを得なかったことでした。おかげさまで、すでに入職や異動で職員は充足し、新しい方の入所が始まっています。また、訪問介護は報酬減額の影響で時間単価▼2%になり、その減収分は▼260万円になります。パートさん2人分の給料に相当する額です。

実質的な大仕事は多機能ホームまどかの新築準備。3月に借地契約が済み、今年度1年かけて設計や資金の手当などを済ませ、来年度前半に着工の予定です。小規模多機能型介護は、地域になくてはならない在宅サービスです。竣工を迎える2026年度末を目指して力を尽くしたいと思います。

大きな課題山積の2025年度、地域の皆さんの応援をこれまで以上にお願い申し上げます。

代表理事 小島美里